

【授業科目】 看護理論 Nursing Theory

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
吉田 和枝、後藤由紀、日比千恵	1 年次前期	必修	2	30	講義	巻末掲載
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対するフィードバック方法	<p>卓越した看護実践には、理論に裏付けられた現象の捉え方や判断基準、対象との関係の持ち方が不可欠である。そのためには、基礎となる看護における諸理論や看護に関する諸理論と看護現象との関係について理解を深めるために必要な知識を教授する。特に、理論あるいは看護理論とは何であるのか、看護理論はどのように開発されてきたのか、理論開発の背景や源泉、概要を明確にしなが、clarity (明確性)、consistency (一貫性)、simplicity (平易性)、usefulness (有用性)、generality (一般性)などの視点から理解を深める。</p> <p>プレゼンテーションは、看護の理論的アプローチは、専門職としての看護活動を特徴付けているのか、という課題意識を持ちながら内容を深める。授業は実務家教員(吉田、後藤、日比)が進める。</p> <p>課題に対するフィードバック方法/レポート、プレゼンテーションについて、全体および個別に講評を返却する。</p>					
授業の位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシー①、②、③、④の達成に寄与している。					
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>①高度看護実践者として看護実践・教育・研究の基盤となる看護理論の歴史的社会的発展過程と役割、意義を説明できる。</p> <p>②看護学の視座から批判的に分析する過程で、異文化の基で開発された理論を日本に適用する上での課題について考察できる。</p> <p>③看護行為の選択に看護理論がどのように関与しているか、現実に活用している看護実践モデルの有効性について分析・考察を行い、その過程において、看護理論が看護実践の場からどのように開発されてきたかについても探求できる。</p>					
時間外学習に必要な内容・時間	<p>指定教科書は事前に読み、授業に臨むこと (30 分)。そして毎回配布される資料及び、紹介された参考文献は、読んでおき、次回の講義やプレゼンテーションの準備に生かすこと (60 分)。</p> <p>各自が選んだ理論家に関する文献を読み込み、プレゼンテーションに臨むこと (120 分)。</p> <p>授業終了後プレゼンテーションでの学びを、指定された項目にそってレポートとしてまとめる (60 分)。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間 (2 単位 15 回科目の場合：予習+復習 4 時間/1 回) (1 単位 15 回科目の場合：予習+復習 1 時間/1 回) (1 単位 8 回科目の場合：予習+復習 4 時間/1 回) を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>					
授業計画	<p>&lt; 看護論・看護理論の基礎的理解 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護論・看護理論の開発の歴史的発展は看護実践の質的向上にどのように影響したか、看護理論の開発に影響した関連諸科学・諸理論との関連性</li> <li>2. F. ナイチンゲールの業績、近代看護</li> <li>3. 20 世紀に継承されたV. ヘンダーソンの貢献</li> </ol> <p>&lt; プレゼンテーション・討議 &gt;</p> <p>開発された看護論・看護理論の有用性に関する検討：明確性・一貫性・平易性・有用性・一般性の視点から検討する。異文化の中で開発された理論を日本で適用できるかについての論議も含む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. ノラ・J. ペンダー：ヘルスプロモーション</li> <li>5. J. トラベルビー 人間対人間の関係</li> <li>6. バトリシア・ベナーが提言する臨床看護実践における卓越性</li> <li>7. ドロセア E. オレムの開発した看護のセルフケア不足理論</li> <li>8. メイヤロフ、ワトソンのケアリング</li> <li>9. マール・ミシエルの不確かさ</li> <li>10. レフ・セミョのヴィチ ヴィゴツキーの発達理論</li> <li>11. マーガレット・ニューマンの提唱する健康の理論</li> <li>12. マドレンM. レイニンガーの文化的ケア、多様性と普遍性理論</li> </ol> <p>&lt; 理論の応用 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13. 各専門領域への看護理論の応用</li> <li>14. 各専門領域への看護理論の応用</li> <li>15. 各専門領域への看護理論の応用</li> </ol>					<p>吉田</p> <p>吉田 吉田</p> <p>後藤 日比 吉田 吉田 吉田 日比 吉田 後藤</p> <p>13~15</p> <p>吉田 後藤 日比</p>
評価方法 評価基準	参加状況 30% プレゼンテーション50% (事前に準備し配布すること) 課題レポート20%					
教科書	<p>・筒井真優美編「看護理論家の業績と理論評価」医学書院 2015・</p> <p>・その他：各理論家が独自に出版された著書については、講義中に紹介する。</p> <p>(理論家の原著も併せて購読すること)</p>		参考書等	<p>・アン・マリナー・トメイ、マーサ・レイラ・アリグッド 著都留伸子監訳「看護理論家とその業績」医学書院 (第3版) 2004</p> <p>・O.L.Walker&amp; K.C.Avant 著 中木高夫・川崎修一監訳「看護における理論構築の方法」医学書院 2008</p>		